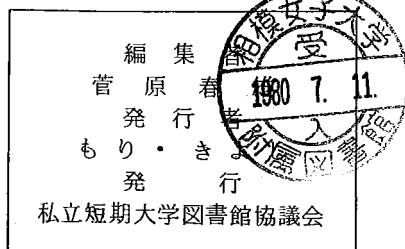


Bulletin of Junior College Library Association



私立短期大学図書館協議会

1979. 12 No. 5

## 今年の短大図書館界の動き

菅原春雄

私立短協発足して草創の今春、待望の総覧が刊行されたことは、短大図書館の実状を知る唯一の資料であり、大変喜ばしいニュースと言えよう。研究担当理事はじめ、会員校、非加盟校の積極的な協力のためものと感謝する次第である。5月にはJLA総会に54年度第1回全国理事会を開き、今年度事業計画など協議し、翌31日54年度「私立短協総大会 通算第3回」がJLA講堂で開催、午前は講演「短大図書館における教員へのサービスの在り方」として①教員の立場からとしてJLA理事長浜田敏郎氏、②図書館側からの立場からとして国学院大学栃木短大図書館長片山喜八郎氏からそれぞれお話しが行われ、活発な質疑が行われ、午後は総会に移り、来賓として岸田国立国会図書館長が、はじめて短大図書館界に顔を出したことは画期的な動きと言えよう。さらにJLA事務局長、公立短大図書館協議会会長の祝辞をいただき議事に入り、53年度事業報告、会計、監査報告それぞれを承認、続いて54年度事業計画等について審議が行われた。(会報4号記載)今年度新規事業として「短期大学図書館研究」なる紀要刊行の計画が発表された。またもう一つの事業として今春刊行の総覧の分析調査の計画が発表された。他方地区活動として地区ごとに連絡のための会報が発行されてきている。全国的各地区の活動状況は本会報に報告されている。(会報4号記載)以後7月には近畿地区9月、北海道10月、東海北陸地区で研修会など盛んに行われた。

日短協の研修会、今年は去る7月27日～30日の4日間京都の京都嵯峨美術短大で開催され、第1日目基調講演「学生のための図書館利用教育のあり方と司書の役割」についてJLA理事長浜田敏郎氏が行った。午後は事例発表「印刷物による図書館利用教育について」成安女子、東京家政、茨城女子の各短大より発表、同時に質疑が行われ、第2日目午前は文化講演「平安時代の美術について」嵯峨美術短大の講演があった。午後は三つの分科会(管理、整理、奉仕)がもたれ活発な討議

が行われた。第3日目午前前は前日の継続討議、午後はパネルドスカッション「学生のための図書館教育の現実と問題点」について、パネラーは次の3校、東京女子短大、文化女子短大、沖縄キリスト教短大より発表と討議が行われ終了、最終日は京都市内の図書館見学(京都府立総合資料館、国立京都国際会館、同志社大学図書館、同志社女子大学図書館)のあと散会。

全国図書館大会が10月25日から27日まで東京上野を中心に開催された。昨年の青森から今年は南の方とされていたが、東京で開催、今年の大会テーマは図書館の全国計画をすすめるという中で、とくにネットワークの推進を各分会、分科会に反映させ、短大部会においても「短大図書館における(書誌的ネットワーク)づくり」を中心として3つの発表が行われた。

①関東甲信越地区私立短大図書館「学術雑誌所在所蔵目録」の編成について②地方の公立短大附属図書館からの報告一静岡女子短大の活動、市民開放、相互協力の現状一③私立短期大学図書館総覧について、①と③は相互協力のToolとして、またその基礎資料としてのデータの集覧でこれらを前提として館種別、地域別、主題別図書館網が全国ネットワークへと推進されるのではないと思われる。昨年の青森大会から開会式に理事長が基調報告をすることで、今年も1年間の図書館界の動向について述べられた。短大に関しては総覧の刊行や短大図書館界で利用教育の研究が盛んに行われていることは大変結構なことであるが、短大のみならず大いに館界として利用教育を真剣に考えなければならないことを強調されたことが印象、さらに図書館員としての自覚として協会内委員会で審議作成、また進行中の「図書館の自由に関する宣言、図書館員の倫理綱領」の制定には一層の関心を寄せた。

短大分科会のあと、第2回全国理事会が上野で理事懇談会的に行われ、主として「短期大学図書館研究」の計画について概要説明と今後の進行について、総覧集計分

析についてなど意見交換を行った。

大学図書館職員講習会は昭和39年より文部省主催によって毎年実施されていたが、この数年公立、私立の短大図書館に受講案内がなくなった。公立短大協ではかねてから総会などで要望し、文部省と再三の交渉の結果ようやく今年度より短大図書館職員の参加を認めるようになった。東京会場は東京大学で10月30日から11月2日まで、大阪会場は大阪大学で11月13日から16日まで行われた。今年の講習内容はとくに機械化、相互協力のための現在及び将来展望について問題点を指摘された。

東短協の存在があやぶまれていたが、正式に存在していることがわかった。規模を縮小し続けるとのこと。図書館研究会は毎年継続して研修会の開催や書誌作成として「私立大学、短期大学紀要類論文目索引」は国会図書館の雑誌記事索引をカバーするものとして二次情報源として欠くことのできないToolであり、全国的にも期待されており、それが76年以降刊行されていないことは残念なことであり、その社会的責任も大きいのではないかと。その後の継続刊行をどこかで行う必要がある。

ことしの研修会はその名称も新たに「短大図書館研究協議会」として再発足して11月30日私学会館で開催された。主テーマは「短大における相互協力」で、まず午前は講演二つを予定し、①相互協力の方向と題して東

洋大学の和田吉人教授、②MARCの現状と題して国立国会図書館の石山洋氏のお話があった。午後は現状紹介として①大学図書館の相互協力として立教大学の多田二郎氏②専門図書館の相互協力として国立国会図書館の森田康之助氏の相互協力の現状について話された。続いて実情交換として「短大図書館における相互協力」として現状報告と問題点を指摘された。発表校としては跡見学園、東京家政、文教大学、産業能率の各短大から。意見交換のあと終了。

この1年振り返ってみると、この2、3年短大図書館界では管理運営の諸問題から利用教育が重視されてきたが、今年の図書館大会で見られるように図書館ネットワークの推進が問題化し、これからの図書館は館種を超えた全国ネットワークが必要であることが痛感された。

それには一般的に言われている相互協力が最も大切ではないか、そのためには短大における格差の問題を如何に質的向上に努力するかなど周辺の基盤整備が急務であろう。少い職員、予算、施設からいかに有効適切に利用者の要求に答えることができるか、それはやはり相互協力をおすすめして行かなければならない。そのためには自館の整備拡充からはじめなければならない。

80年代に向って短大図書館は如何にこれらに対処して行くか再考しなければならない。

(文教大学女子短大図書館)

## 声の欄

# 図書館相互協力を考える

上 沢 田 浩

先日の図書館大会短大図書館分科会に於いて「小規模図書館間の相互協力はあまり意味がない。」という様な趣旨の話がありました。これに関連して、二、三の感想を述べてみたいと思います。相互協力の必要性については従来から色々な論議もあり、既に十分な活動実績をもつ例も沢山あると思います。しかしまだその恩恵に浴さない館、或は、<sup>マイナス</sup>(-)の活動と感じている館も多い様です。何故でしょうか？原因は①負担が片寄りすぎること ②他館資料の実情がよくわからないという様な所にあると思うのです。自館資料の情報を積極的に公開しているのは学術雑誌総合目録を始め各種目録の掲載館でもわかるように比較的大規模図書館が多く、このために大規模図書館は相互協力という名の下に負担の増加を強いられているのが実情ではないでしょうか。この状態を打開するためには小規模図書館も大規模図書館に向けて自館資料の情報を積極的に公開する以外には方法がないと思うのです。一館の情報では微々たるものですが、

数館の、或は各地区の、或は全国ネットの総合目録と考えると相互協力の前途に光明を見る思いがします。その様に考えると国学院大学栃木短大を始め、二、三のブロックで計画されている雑誌総合目録作成の事業に対し深い感謝と更にこの活動が他のブロックにも広がり、将来は、全国短大雑誌総合目録の作成に発展していることを祈る次第です。第2に私共埼玉県では県立図書館を始め公共(公立学校を含めた)図書館協議会は存在し色々な活動を行っているようですが、私立(大学、学校)図書館を含めた協議会は存在しません。近隣図書館間とのネットワークもなく全国図書館のネットワークを考へるのも変な話です。私共は公立図書館に働きかけて埼玉県図書館協議会という様なものを作ってほしいと思っておりますが、各県の実情がわかりません。既に出来ている県がありましたらどんなことでも結構ですお知らせ戴きたいと思っております。

(女子聖学院短大図書館)

## 短大図書館めぐり 第5回

### 山形女子短期大学附属図書館

本学では、昭和52年「短大創立十周年」（学園としては五十周年）の記念式典をむかえたのを機会として、新図書館建設が具体化し、昨年4月、建設委員会が発足し、建設準備、基礎設計に入った。構想として、新図書館の他に特別教室、教員用研究室を含めた総合館舎である。委員長は富沢カネ学長であるが、主として富沢昌俊副学長が総括担当された。

昭和53年7月、基礎設計に着手し、54年3月本設計が完成、4月27日起工式を挙行し、建設工事に入った。位置はキャンパスのやゝ北寄りとなるが、第一校舎と体育館との中間で、東面鉄筋鉄骨造り4階（一部屋上塔屋を入れて5階）の規模で、完成後は第一校舎本部1階・2階とそれぞれ渡り廊下によって連結される。

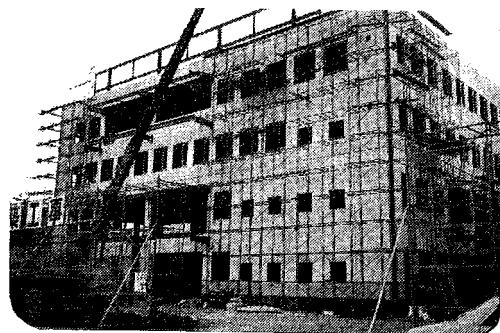
1・2階が図書館、3・4階が特別教室で3階には講義室3、演習室1、研究室10が設けられ、4階には視聴覚教室兼大講義室、語学(L・L)教室、演習室1、研究室6が設けられる。

建築面積は1階が840平方米(254坪)、総床面積は屋上塔屋をふくめて3,450平方米(1,045坪)である。

1・2階の新図書館は将来の図書館としての性格を完全に発揮し得るよう、資料の利用面において、また管理運営面においてもっとも機能的・合理的にムダを省いた効率的な基礎設計となっている。

1階中央部にメインカウンターを設け、1・2階の一切の集中管理ができるよう機械化し、その背後に管理事

務室、廊下を距てて、積層式(3層)閉架書庫、密集式書架(コンパクト)を設置している。開架式書架を備えた第一閲覧室・参考図書室と最短距離によって結ばれるよう配慮されている。2階の中央部にはサブカウンターが設けられ、管理面と共に、レファレンスの機能をも兼ねる。開架式書架を備えた第二閲覧室の他に東面して、明るいブラウジングルームが設けられ、ゆったりとした気分で新聞・雑誌等の閲覧が可能である。その他、資料展示室等を完備し、1・2階合計174席、開架式書架に2万7千冊、閉架式書庫に9万冊収容可能を考慮している。可能な限りロスを排除した効率的な設計となっているが、しかも余裕ある雰囲気保持着している等、完成後は本学の授業・学習・研究面に画期的な成果を挙げるものと期待されている。建てもの本体の竣工は12月であるが、新図書館の開館は1月の予定である。



## < 地区協議会活動報告 >

### < 北海道地区 >

本年4月に設立された北海道地区協議会の第1回(昭和54年度)研修会が、さる9月21日(金)午後1~4時までの3時間にわたって、札幌市内の北海道会館において行われた。

今年度は、『NDC 新訂8版』についてをテーマとしてとりあげ、NDCの生みの親でもあり、また短図協会長のもり・きよし先生をお迎えし、講演にひきついで活発な質疑応答がかわされた。

さらにこの研修会は、北海道図書館連絡会議の全面的な後援と、テーマに対する関心も反映して、参加者は道内各地、各館種にわたり、主催者の予想をはるかにこえ

る162名を数えるものとなった。これは、北海道内で開催された図書館関係の催しとしては最大規模のものであった、と高く評価されている。

しかし、一方参加者の館種別内訳をみると、主催者側の短大からの参加が、13館22名であり、道内の短大数24(4年制併設を含む)からみて、今後の一層の働きかけの必要性を痛感させられた。(S記)

### < 東北地区 >

東北地区福島県において、堅実な活動を続けておられる福島女子短期大学図書館(図書館長 山村弥六郎教授)が去る7月、本協議会に加盟され、東北地区加盟館として活動されている。東北地区加盟館は計11館となった。

東北地区の本年度の活動ならびに、研究集会等の予定計画については、「会報」第4号に報告の通り、理事長（山形女子短期大学）附属図書館が去る4月27日起工式後、引き続いて建設工事に入っているため、新図書館が竣工後、新図書館を会場として地区研究集会を開催する年度スケジュールを樹てており、各加盟館ほご連絡申し上げている。なお、その折、私立短期大学図書館協議会「東北地区協議会」としての組織と機構を整え、将来の活動の基盤を明確にすることになっている。

### ＜東海・北陸地区＞

全国7地区協議会があるが、地区協議会誌としての会報の創刊5月これは本地区が最初。

#### ＜54年度総会・講演会・研究会概要＞

日時：10月5日 午前11～午後4時

場所：大垣女子短期大学

参加者：16校（うち会員校14校）28名

野村成章氏（大垣女子短大）の司会進行により、議長に小野崎弘芳氏（聖徳学園女子短大）が選ばれ、会長及び会場校より挨拶のあと議事に入り、事務局報告が行われ、審議事項として当協議会54年度補正予算案を原案どおり承認、可決、引継いで講演会に移り、中部女子短期大学事務局長河村穰氏による「情報の内容について」お話をいただいた。

研究会は鈴木明日香氏（名古屋短大）の司会で、1図書館利用について東海学園女子短大、金沢女子短大から実状発表がそれぞれあった。その他、暁学園短大、北陸学院短大、大垣女子短大から実例をあげての発言があった。助言者から「オリエンテーションの効果としては、事務的な説明で終始するならば効果はうすいが、スライド等の視覚に訴えるものであれば効果があると思われる。しかし、今後はゼミナールのときに実際に図書館を利用し、資料検索の指導をしてもらうなど教官にオリエンテーションの実務をゆだねるという方向が望ましいのではないか。」との助言があった。2図書管理とくに長期不明図書について、まず討議に先立ち事務局林より「図書の受入については、各館とも充分留意して資産を繰り入れているが、それ以後の管理、特に長期不明図書の処置に関しては、何等の手も施されていない館があるのでその処理対策の研究のため設定した」と提案理由とアンケート結果の説明が行われた。ついで、大垣女子短大より実状発表があった。その他棚卸しをすみやかにする方法や図書委員の活動内容、蔵書構成、司書の専門性、図書の収集方針と選書、研究室の図書のあり方など予定されていたが、時間の都合により十分な討議ができなかったため次回に持ち越しとなった。

○見学会 総会に先立ち、11.20分より行なわれた横井大垣女子短大事務局長の挨拶の後、図書室長の野村氏の案内で校内を一巡し、この春、新しく完成した図書館を見学した。

#### ＜会を振り返って＞

年間予算26,000円の中での会の開催であるため、経費をあまり使わない計画であったが、途中、交付金の増額や新規加盟館も数館あったので、講演会を取り入れた補正予算を組んで開催した。その間、講師の車代を本部に依頼したところ、おおいに賛同をえて、当初計画より立派な会となった。今回は時間のわりに内容が盛沢山であったため、十分な討議ができなかったので、開催を2日間にしてはどうかという意見があった。

尚当日参加者配布資料として①昭和54年度総会、講演会、研究会資料②昭和54年度図書館運営及び利用指導の調査、③地区加盟館一覧及び図書館職員名簿が配布された。

### ＜近畿地区＞

#### ＜昭和54年度第1回研修懇談会＞

日時：昭和54年7月7日（土）13:00～16:30

会場：帝塚山学院短期大学

参加館：30館（41名）

#### ①講演 「短大図書館の利用教育について」

講師：大阪女学院短期大学助教授 丸本郁子先生

要旨：「利用教育」を単に利用のテクニックという面ではなく、短大教育のあり方に直接的にかかわる問題としてとらえ、短大教育全体のプログラムに組みこまれたかたちでなされるのが望ましいとして、短大教育のあり方、利用教育のアメリカでの流れと日本の現状、また先生御自身が勤務校で試みておられる「研究調査法」という課目について、カリキュラムに組みこまれるまでの経過と、この課目の目的、講義内容、評価と問題点等について話された。カリキュラムに組みこんだ利用教育が望ましいかたちであることはもちろんだが、マズプロになってしまうと効果的でないことや、短大図書館の現状で、現場がそれに対応してゆくことには相当の無理が生じてくるということから、充分な下地が出来るまでは図書館サイドでの、利用案内やオリエンテーションへの工夫、レポートの書き方、資料の検索法等の単発的な講座をひらいたり、そういうかたちで始めてゆくのがよいだろうというアドバイスもあった。質疑応答では、各館の利用教育の現状、無関心層の目を図書館に向けさせる工夫や、今後の利用教育に対応してゆくための二次資料の整備や総合目録の必要性等について活発に意見が交換された。

#### ②実務研修「逐刊物・寄贈本の取り扱いについて」

- 寄贈の図書及び逐刊の受入基準と会計的な扱い。
- 逐刊の保管の基準。欠号補充。保存の期限。製本。整理の仕方。貸出。逐刊納本の遅れ。コンテンツサービスの必要性と効果。雑誌所在目録の作成。他。
- ③情報交換のため有志館より、所蔵目録、館誌、マニュアル、利用案内等が配布された。9館(14種)。実務研修の参考資料として、「逐刊及び寄贈本についての切枝帖(日短協研修会報告集1959-1978より)」を作成して配布した。

### ＜第2回研修懇談会＞

日時：昭和54年11月7日(水)13:30~17:00

会場：帝塚山大学(奈良)

参加館：32館(39名)

①図書館見学：帝塚山大学 学生数1,400名の中規模館としての理想を追求した結晶として、設計・設備に様々な工夫が見られ、その全体の豪華さに於ては、ただため息が出るばかりだ。この恵まれた文化的環境の中で学生時代を送れる人たちは本当に幸せだと思った。当日は、実務的な面についての見学や、質問も受けていただけなので、多くの収穫をおみやげに持ち帰ることが出来た。

②協議会：近畿地区雑誌目録の作成について。

○収録雑誌：学術及び一般雑誌について和洋両方を対象とする。但し紀要は今回は含めない。国立大学の紀要は複写依頼に手数料がかかるので、含めたいという発言があったが、このことについてはむしろ、複写手続きを簡単にしてもらうよう、私短協として働きかけてもらいたいという意見が出て全員賛同。

○複写申込用紙：地区毎に考えず、私短協として全国の私立短大に共通したものを作成してにしい。近畿地区としても意見をまとめて出す。

○原稿はカード式とし、必要項目を前もって印刷したものを用意して各館に送る。

○欠号表示：各館の負担を最少限にするため、欠号表示はくわしく求めない。

○永久保存：有限保存の別を目録に明示すべきだという意見については、図書館としてそういう判断を下せるという館が $\frac{1}{3}$ 程度で、消極的であった。

○各館から出されたカードの上部に、各短大をそれぞれ番号化し、ナンバリングを押す。

○このほか分担保存の進め方、その他多くの問題が出され、この日の話し合いをもとにして準備委員会で「案」を作成し、再度、近畿地区の各館に計る。資金のこともあるので、これを機会に加盟館をふやし、地区活動交付金(1館当り2,000円)の増額を計りたい。

### ＜中四・四国地区＞

①活動としては当地区協議会会長校より東京事務局よりの報告や昨年の青森大会時における報告など文書で会員校へ報告した。

②最近では54.10.31付で。各加盟館へ最近の私立短協の活動報告として、会報5号12月刊行予定、私立短期大学図書館総覧79の刊行とその分析調査、今年度事業として「短期大学図書館研究」と称する紀要刊行、54年度新規加盟「四国女子大学短大、桃山学院短大」の紹介など文書で報告した。

③地区役員の変更(会長、幹事・会計監査)が郵便投票11月6日着で行われた。

次期役員校 地区協議会長校 四国女子大学短大  
幹事校 高知学園短大  
会計監査校 高松短大

### 私立短期大学図書館総覧の 集計分析について

今春刊行された総覧にもとづき、研究担当理事を中心とした分析小委員会を結成し、集計分析を進めております。一部今年の図書館大会で発表しましたが、集計方法について御意見等ございましたら、また集計項目に関心ある方は、どしどし研究担当校まで連絡いただければ幸いです。一応今年度中に分析編として小冊子を刊行する予定であります。

研究担当：芝原

### ＜事務局報告＞

#### 昭和54年度第2回 全国理事会

日時：昭和54年10月25日 午後5時 上野

概要：報告事項として事務局報告、会報報告、広報報告、各地区報告などの予定があったが、当日午後JLA短大分科会開催に際し、例年国公私との報告があり、その中でも今年も私立側が私立短協の1年間の報告をしたので(1P参照)早速協議議題に移り、1として今年度事業として「私立短協発行『短期大学図書館研究』と称する紀要刊行の件について共立女子大短大の宮島氏から概略と今後の進行状況について説明があり、ほぼ原案を承認した。2として総覧の集計分析について東洋英和女学院の芝原氏から今後の集計分析の方法及び協力方をお願いした、以後懇談会

## 昭和54年度第3回 在京役員会記録

昭和54年7月19日 於 日本図書館協会

## I 報告事項

- 1) 新規加盟館(7館)
- 2) 国学院大学栃木短大図書館で電算機導入
- 3) 会報第4号発行
- 4) 全図連総会で私立短図協加盟決定
- 5) 北海道地区で9月21日 NDCセミナー開催

## II 協議事項

- 1) 全国理事会開催の件、図書館大会終了後上野で開催、詳細は各理事へ連絡すること。
- 2) 紀要刊行の件 B5で50～60Pぐらい、54年度中に刊行する。名称は「短期大学図書館研究」

内容は

論文、実践報告、書評、グループ研究・書誌、ニュースなど、編集委員会は在京役員会が兼務する。責任者として一応委員長を共立女子大短大の宮島氏とする。執筆要項は次回役員会で検討、予定として11月中原稿依頼、切を1月、3月上旬発行予定、付録として短大紀要一覽、書誌として「短大図書館に関する文献目録」を収録する予定。

3) 短期大学図書館総覧の集計分析について—全国図書館大会で発表の件。

- 4) 関東地区協議会運営と今後の課題について

## 第4回 在京役員会記録

昭和54年9月10日 於 国学院大学栃木短大

## I 報告事項

- 1) 会勢 北海道12 東北11 関東58(30) 東海・北陸18 近畿38 中・四国15 九州24 合計177館(54年4月以降48館)
- 2) 総覧の売行き状況 108部
- 3) 地区活動 近畿地区7月7日、北海道地区9月21日それぞれ研修会が開催された。

## II 協議事項

- 1) 関東地区協議会運営の件
- 2) 全国理事会開催の件 10月25日
- 3) 紀要刊行の件

## 第5回 在京役員会記録

昭和54年10月18日 於 青葉学園短大

## I 報告事項

- 1) 会勢 名古屋女子商科短大図書館加盟で178館
- 2) 会費納入状況 160館済 18館未納
- 3) 大学図書館職員講習会受講案内取扱処理について
- 4) 地区報告 1.北海道地区で9月21日本協議会長もり・きよし先生によるNDC8版について講演が行われた。2.東海・北陸地区で10月5日総会、講演会「情報内容について」が行われた。

## II 協議事項

- 1) 紀要の件、委員長として共立女子大短大の宮島氏が承諾された。そして具体的手順について協議した。
- 2) 総覧分析の件、今後の進め方として総覧分析小委員会のもとに進め、また在京役員会や他の協力者があれば応援する。
- 3) 全国理事会の進め方について
- 4) 会報5号編集について

## 文献紹介

各館で図書館利用教育用として、ガイドブック・小冊子など盛んに作られておりますが、一般的には、図書館の全般的概況の説明で終わっております。なかには主要雑誌目録や主要参考図書一覧など付録として記載されております。また最近では相互協力のための類録機関一覧などもあげております。これとは別に最近では利用の一般的案内のほかに文献検索、探索の案内が作成されてきました。文献探索案内書として次の二つを紹介します。

- ① 図書館利用のてびき2 利用者のための図書館学—文献探索の手引— 高知学園短大図書館 1979
- ② 図書館で学ぶために No.2 文献探索の手引 東京女子大学短期大学部図書館

## 私立短図協の歩み〈53～54〉

- |  |  |
|--|--|
| <p>52. 12. 10 会報創行号発行配布<br/>         3. 24 近畿地区第1回研修懇談会大谷女子短大で開催</p> <p>53. 3. 28 第1回関東地区協議会 JLA NCR 新版・予備版の解説と総会<br/>         5. 25 53年1回全国理事会 JLA<br/>         6. 15 東海北陸地区協議会発足準備会 愛知淑徳短大<br/>         7. 10 会報2号刊<br/>         7. 28 第2回近畿地区研修懇談会 大谷女子短大<br/>         12 第2回東北地区協議会 青森市民会館、第2回全国理事会<br/>         13 第2回私立短図協総会 青森東奥日報社<br/>         31 東海北陸地区第1回実務研究会 愛知淑徳短大<br/>         12. 4 九州地区 第2回実務研修会 西南女学院短大<br/>         12. 9 第3回近畿地区研修懇談会 見学<br/>         12. 10 会報第3号発行</p> | <p>54. 1. 27 近畿地区第4回研修懇談会 大谷女子短大<br/>         3. 30 私立短期大学図書館79刊<br/>         4. 27 北海道地区協議会設立総会 北海道武蔵女子短大<br/>         5. 17 東海北陸地区54年度第1回幹事会愛知淑徳短大<br/>         5. 30 54年第1回全国理事会 JLA<br/>         5. 31 第3回私立短図協総会 JLA 午前講演、午後総会、全図連に加盟<br/>         7. 7 近畿地区第1回研修懇談会 帝塚山学院短大<br/>         7. 10 会報第4号発行<br/>         9. 10 4回在京役員会 国学院大学栃木短大<br/>         10. 5 東海北陸地区54年度総会 大垣女子短大<br/>         10. 18 第5回在京役員会 青葉学園短大<br/>         10. 25 第2回全国理事会 上野 会員校 178館となる<br/>         11. 10 「短期大学図書館研究」創刊号原稿募集<br/>         12. 10 会報5号発行予定</p> |
|--|--|

### 「短期大学図書館研究」編集・刊行について

標記につきましては54年度総会で今年度新規事業として紀要刊行の件を計り、承認されました。その後在京役員会で具体的内容等の検討を進め、全国理事会に報告・了承を得て、編集委員会を組織（在京役員会兼務）しました。以下大要は次のとおりです。

#### 1. 刊行の趣旨

本誌は全国的規模における短期大学図書館員の研究活動の啓蒙と、その理論的な裏付けとなる調査研究、事例報告などの発表の場として、また、図書館関係研究者相互における研究情報の交流の場として編集刊行するものである。短期大学図書館の現状は、近年着々とその実をあげているものの、全体的には、人員、施設・設備、業務体系など、未だ量・質とも厳しい条件に置かれていると言わざるを得ない。本誌が多くの図書館員と関係研究者の方々の参加、支援を得て、中味の濃いものとして、図書館員全体の質的向上と、有為な人材の輩出に繋がり、短期大学図書館が当面する様々な課題の解決と、将来の進展の一助として、その役を果すものになることを期待したい。

#### 2. 内容

短大図書館に関する研究論文、業務に関する事例報告書誌・文献目録、硬軟多様な記事・情報ニュースなど。

#### 3. 資格

短期大学図書館職員、研究者、その他

#### 4. 原稿と発行予定

創刊号の原稿は55年1月10日とし、発行は3月上旬予定

○原稿募集要項及び執筆要項はすでに各地方理事を通じて会員校へ送付されました。会員校各位の積極的な投稿をお待ちしております。

問合せは下記へお願いいたします。

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-2-1  
 共立女子短期大学図書館内

「短期大学図書館研究」編集係  
 電話 03(237)2630

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職・氏 名
＜東 北＞			
福島女子短大	960-01	福島市宮代字乳児池1-1	司 書 細 貝 睦 子
＜関東・甲信越＞			
玉川学園女子短大	194	東京都町田市玉川学園6-1-1	事 務 長 斎 藤 忍
東海大学短大	420	静岡市宮前町101	司 書 鈴 木 町 枝
＜東海・北陸＞			
中部女子短大	501-32	岐阜県関市倉知向山4909-3	図書館係長 西 郷 三千夫
名古屋女子商科短大	463	名古屋市守山区小幡字小林48	図 書 係 間 瀬 ゆり子
富山女子短大	930-01	富山市願海寺水口444	次 長 上 田 道 夫
＜近 畿＞			
堺女子短大	590	堺市浅香山町1-2-20	司 書 糸 永 敏 子
大阪基督教短大	545	大阪市阿倍野区丸山通1-3-61	司 書 高 橋 寿恵子
神戸山手女子短大	650	神戸市生田区山本通5-45	図書館事務長 永 田 恒三郎
＜九 州＞			
鹿児島女子短大	890	鹿児島市紫原1-59-1	館長補佐 入 部 兼 弘

～原稿をお寄せください～

会報創刊以来連載として「短大図書館めぐり」「会員校の声」を毎号記載しておりますが、その他新館紹介、随筆、自由投稿の声の欄や資料重複交換コーナーなど、また資料紹介、小さなニュースどんなことでも結構です。会報は原則として年2回、7月と12月刊行ですので、切は別に定めませんので、思いつくまま、随時送付していただければありがたいと存じます。会報は会員校の

情報誌として有効に利用されますよう、御協力、御支援をお願いします。

原稿送付先

〒142 東京都品川区旗の台3-2-17  
文教大学女子短期大学部図書館内  
私立短図協会報編集担当係

地区別加盟館数

昭和54年11月15日現在

北海道	13	東海・北陸	20
東 北	11	近 畿	38
関東甲信越	57	中・四国	15
(東京) (30)		九 州	24
脱会	1	(計)	178館

編集後記 会報第5号をお届けいたします。私立短図協が発足して3年目は入りました。ようやく中央や地方で着々と活動が行われ、このような組織がもっと以前にできなかったのかという声やこれが私立短大における唯一の全国組織である故今後の活躍を期待したいなど積極的な支援をいただいております。今後相互協力とともに結集を図って行きたいと思っておりますので会員校の一層のご支援ご協力をお願いいたします。(S)

発行所

私立短期大学図書館協議会 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1  
東京女子大学短期大学部図書館内 Tel: 0422-45-4145